



ニウオク(古い)

本田優子(札幌大学教授)

アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。



半

世紀前の高校時代、数学のテストの前日に私
を含む落ちこぼれ三人組は、出題予定範囲の
どの問題が出るか「こっくりさん」(今の若い人は知ら
ないかな?)で占いました。当然、結果は大敗北(笑)。

かつてのアイヌ社会にも様々なニウオク(古い)が
あったようです。たとえば「ゴールデンカムイ」で有名
になったのはウエインカラ(千里
眼)ですね。不思議な力を持つ
美魔女インカラマツが、手のひら
を上にして、指先を透かすよう
にしながら相手を見て占う方
法が紹介されています。

かつては、巫術(ふじゆ)を行うトゥス
クルと呼ばれる人があちこちの
コタン(村)にいて、病気の原因
を占ったり、失せ物を探し出し
たりしたとのこと。二風谷で
は、昭和一〇年頃に死者が相次
いだ理由を占ったところ、村の
真ん中にあったキキンニ(エソノウフミズザクラ)の木
が悪さをしているのだとの託宣(たてまつ)があり、村人総出で掘
り起こしたことがあったようです。

アホウドリやキツネの頭骨を使った占いも知られてい
ますが、静内(新ひだか町)のエカシ(おじいさん)によ
る記録映像が残されています。この時は、伝染病にか



イラスト/山丸ケニ

かった人が早く回復するかどうかを占っています。イ
ナウキケ(削りかけ)を巻き付けて飾ったキツネの頭骨
を頭の上に載せ、下に落とした時に、そのままの向きで
落ちると早く治る。でも、ひっくり返ったらちよつとアブ
ナイ...とのこと。キツネは素早く動いて助けてくれるカ
ムイだけれど、この占いはせいぜい二、三回くらいまでに
しておかないとダメなんですっ

て。同じように、頭に載せたトゥ
キ(杯)とイクパスイ(捧酒箸)
を下に落とし、真偽を占う踊り
が旭川地方に伝わっています。

また、白糠町のエカシが猟に
出る前に、囲炉裏端で占いをす
る映像もあります。七センチらい
の小さなイナウ(木幣)を五本
作って火の側に立てると燃え残
りが黒い芯になり、一番長い燃え
芯が向いている方向に獲物がい
るのだそうです。このエカシは

仕掛けミヤマレク(突き鉤)漁(かま)など伝統的な技を幅広
く伝承していた方で、鉄砲にもイナウキケ(削りかけ)
が結びつけられ、カムイへの深い祈りが感じられます。
このように本格的なものでなくても、草花を使った
かわいい恋占いなどもあったようで、古今東西、占い
て人の心を惹きつけますよね。



次回のテーマは「ラスパニ(ノリウツギ)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)が
担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トラレップン」



イランカラテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。